

研究協力のお願い

昭和医科大学藤が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

MRI 画像を用いたクロステーブルでの膝関節側面撮影最適撮影角度について

1. 研究の対象および研究対象期間

2010年から2025年12月31日までに昭和医科大学藤が丘病院で膝関節MRIを施行した成人患者さんで、人工膝関節挿入もしくはリウマチや変形性膝関節症で評価できない患者さんは除外しています。

2. 研究目的・方法

膝関節の側面像をレントゲンで撮影する際、膝に外傷や強い痛みがある場合、膝の位置決めや触診が困難となり、正確な撮影体位を取ることが難しくなります。膝を触れないで撮影した画像では膝関節が斜めに描出され、関節裂隙（関節のすき間）や骨の重なりの評価が不正確になることがあります。その結果、再撮影が必要となり、患者さんの被ばく量が増加するだけでなく、撮影にかかる時間も増加してしまいます。先行研究では、患者さんが仰向けに寝た状態で、「足の親指」「足関節の内果（内くるぶし）」「大転子付近（足の付け根の外側にある骨の出っ張り）」が一直線になるように調整し、真横から撮影することで、正確な膝関節側面像が撮影できることが報告されています。しかし、外観からの目視だけで正確に調整し撮影することは困難です。

そこで我々は、診療目的で撮像されたMRI画像から、膝関節を真横から見た状態における大腿骨と脛骨の位置関係や角度を定量的に計測し、膝関節の内顆・外顆（内側と外側）が揃いやすい傾向があるのかを調査し、仰向け状態で膝関節側面を撮影する際の最適な角度を検討します。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから2027年12月31日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

膝関節MRIで撮像された画像データ。診療記録から年齢、性別、既往歴のデータ。

5. 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

6. 研究組織

研究責任者 昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院 放射線技術室 飯森 康平

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院 放射線技術室 氏名：飯森 康平

住所：横浜市青葉区藤が丘 2-1-1 電話番号：045-974-2221（内線：3621）